

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 9 - 39

1 事務事業の表示

■ : 該当

事務事業名	雄武地区特定漁港漁場整備事業(雄武漁港整備)					
評価者	担当課名		産業振興課		担当係名	
	管理職	職名	課長		作成者	職名
		氏名	石井 弘道			氏名
事業の概要	雄武漁港の係留、輸送施設、用地埋立及び漁港衛生管理施設の整備に伴う負担金				全体計画	
					(平成 20 年度 ~ 24 年度)	
					国・道支出金	千円
					地方債	122,100 千円
					その他	34,000 千円
事業費		一般財源	13,900 千円			
		事業費計	170,000 千円			
実施方法	☐ 直営	☐ 民間委託	☒ その他 ()			
第 5 期 総合計画(前期)		☒ 登載事業	☐ 非登載事業	優先度	A	
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～				
	基本施策	3 水産業の振興				
	単位施策	2 経営基盤の強化				
	事務事業の種類	☒ 自治事務	☐ 法定受託事務			
	その他計画・根拠等	雄武地区特定漁港漁場整備事業計画・漁港漁場整備法				
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	8,600 千円	12,100 千円	18,700 千円	23,600 千円	49,300 千円
	その他財源	2,391 千円	3,372 千円	4,690 千円	5,920 千円	13,720 千円
	雄武町負担額(一般財源)	968 千円	1,388 千円	61 千円	80 千円	5,580 千円
	合計	11,959 千円	16,860 千円	23,451 千円	29,600 千円	68,600 千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町内漁業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	早期完成による漁港機能の高度化及び漁業の安全性・生産性の向上	工事進捗率		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	施設整備により漁港機能が高まり、漁業の安全性向上が図られ、生産性の高い環境を創造する。	工事進捗率	指標(指標計算式/解説)	
			目標年度	22年度
			目標値	100 %
			実績値	100 %
			達成度	100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	施設整備により漁港機能が高まり、漁業の安全性・生産性の向上を図る。	全体事業費と完成事業費の対比	目標年度	27年度
			目標値	6,586,000 千円
			実績値	4,396,149 千円
			達成度	66.7 %
			内 容(どのような手段で何を行ったか)	
漁港整備に係る地元負担金	雄武漁港整備に伴う地元負担金の支出。			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか、当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要 / 概ね必要 / 課題あり	☐ 義務的なもの	雄武地区特定漁港漁場整備事業計画に基づく事業であり、生産労働の効率化、安全で効率的な漁業地域の形成及び衛生管理施設の整備を図る必要がある。
	☐ 全部 ☐ 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効 / 概ね有効 / 課題あり	設定した目標値の達成状況	衛生管理型漁港及び関連施設の整備促進により、漁港機能の整備が図られている。
	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	判断の理由	道と町との負担割合が定められており、事業費抑制等のコスト削減ができない。
	☐ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☒ その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平 / 概ね公平 / 公平でない	判断の理由	漁業生産活動の基盤である漁港整備は、経営基盤の強化を図るために重要な事業であり、受益者負担金を徴収している。
	☒ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☐ その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
施設整備により、漁港機能が高まり、漁業の安全性、生産性の向上が図られている。		



継続 / 現状維持		
漁港は漁業生産活動の基盤をなす最たるものであり、特に雄武漁港は拠点漁港である。雄武漁港の整備は、平成7年度に着手され、新たな長期計画のもと逐次整備されており、更なる漁業生産性の向上、衛生面、就労環境面等において、予算の重点配分による早期の完成が望まれることから、継続実施が必要である。		

*展開方向の区分

- 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--